

22	学 年	単 元(題材)	学 習 内 容
	6	単位量あたりの大きさ 2	速さを比べる

「走るのが一番速いのは誰でしょう。」

	m (距離)	秒 (時間)
Aさん	80	13
Bさん	100	15
Cさん	80	15

誤答例

- ・ Aさん $13 \div 80 = 0.1625$
- ・ Bさん $15 \div 100 = 0.15$
- ・ Bさんの方が速い

つまずき方

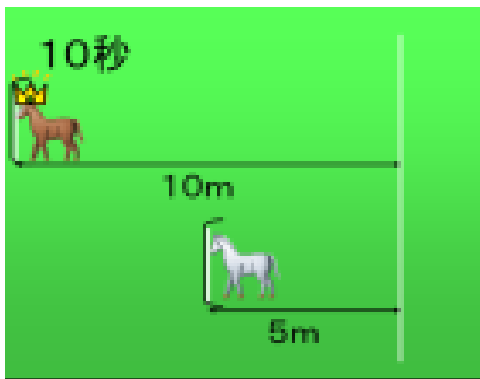
- ・ 「1秒あたりの距離」「1mあたりの秒数」が式と結び付かない。
- ・ 1秒か1mか、もとにする単位が異なる場合、求めた数値の大小でどちらが速いか判断に迷う。
- ・ 計算間違い
- ・ とりあえず割り算をしてしまう。

原因

- ・ 速さを数値として表すという概念が難しい。
- ・ 1mあたり何秒かかるかを求めているのだが、計算で求めた答えの数値が大きいと「速い」と判断してしまう。

支援の手だて (指導方法, 教材・教具, ワークシート, ヒントカード, 指導形態の工夫など)

(1) 1秒か1mか、もとにする単位が異なる場合、求めた数値の大小でどちらが速いかを確認するためのデジタルコンテンツを活用する。

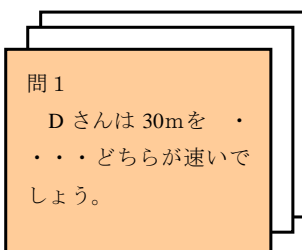


デジタルコンテンツを活用すると、イメージをとらえやすいですね。
デジタルコンテンツは添付ファイルを参照して下さい！



(2) 1枚に1問を提示した練習問題つづりを活用し、1問ごとに集中できるようにするとともに、一人一人が時間や難度に応じて取り組めるよう支援する。

- ・ 学習速度が速い児童にも対応できる。
- ・ 1問の用紙だけ、色つきにするとどの児童が1問目でつまずいているかを確認しやすい。
- ・ 1問目は教師が丸つけをし、2問目以降は答え合わせコーナーにて自分で答え合わせをする。



課題が難しい場合には、個々の課題解決に要する時間が大きく異なることがあります。上記のような工夫で個の学習状況に対応することができます。

